

番号 3	品川区立東海中学校(分離型)	校長 細越 政道
	城南小学校(分離型)	中嶋 英雄
	城南第二小学校(分離型)	村尾 勝利
	浅間台小学校(連携型 ※協力校)	豊島 呈次

平成24年度カリキュラムマネジメントモデル校

1 研究課題 『分離型・連携型における9年間教育の在り方』

～ミドルリーダーによる小中一貫教育推進における課題解決～

東海グループ 分離型(東海中・城南小・城南第二小)・連携型(浅間台小 ※協力校)

2 研究の概要

東海グループは、小中一貫教育を継続・発展させるため、グループ校の副校長を中心に各校のミドルリーダー(主幹・主任)が主体となって改革していくための仕組みを構築し、各校の独自性と特色づくりを生かしながら小・中の一貫性のある教育スタイルを構築していく。

そして、分離型・連携型小中一貫校としての目標に対する教育活動を「目的」「組織」「カリキュラム」「人」の4つの視点で効果測定を行い、効果的なカリキュラムマネジメント(※1)のあり方について研究・開発する。

この研究を通して、東海グループ小中一貫校では、これからの社会を自分の力で切り拓いていくことができる15歳の姿として「自信をもち将来像を語れる子に育てる」ことを目指していく。

3 研究の目的と仮説

(1) 研究の目的

区内の分離型・連携型の小中一貫教育の推進に資するモデルプランを提案する。

① 東海グループとしての小中一貫教育の経営管理の進め方

- ・ グランドデザインとビジョン展開シートの作成と改善 (校長会)
- ・ 東海グループ一貫教育についての運営と協議 (副校長会)

② 組織体制のあり方

- ・ 4校のグループ校長会、グループ副校長会
- ・ 「経営企画部」と「学年指導部」の設置

③ ミドルリーダーによる組織運営

ア 経営企画部

「学力・カリキュラム部」 主幹教諭・教務主任

- ・ 一貫教育の目標に基づく教育活動の全体計画
- ・ 基礎学力の向上・教科指導の課題解決
- ・ 論理性の育成、各教科のカリキュラム改正 他

「生活・生徒指導部」 生活指導主任

- ・ 生活指導の課題と対策
- ・ 自己有用感の向上、基本的な生活習慣
- ・ 生活のきまり、学習規律、礼法指導 他

「市民科推進部」 市民科推進教師

- ・ 各教科での市民科15能力と関連づけと単元開発

- ・市民科学習の効果診断
- ・15能力を踏まえた教科指導事例 他

「進路・進学部」

- ・個に応じた育成計画の作成
- ・進級進学課題への対応 ※幼保小連携も含む
- ・2、4、6年生の進級テストの作成・集計・分析
- ・6年生の中学校訪問、夏季休業中の交流 他

イ 経営企画部

「学年指導部」 2-4-6-7-8年生の担任または副担任

- ・各学年段階における学習指導、生活指導の情報交換
- ・東海グループ小中一貫教育の4-3-2に関する取組、成果と課題、改善策 他

④ 東海グループ小中一貫教育の各期の教育目標に向けた取組

- ・前期：1～4年生 「自立した生活と態度の育成」の習得 [主体性・積極性]
※市民科学習の重点 自己管理領域・人間関係形成領域
- ・中期：5～7年生 「社会的な判断と責任ある行動」の伸張 [適応性・実行性]
※市民科学習の重点 自治的活動領域・文化創造領域
- ・後期：8～9年生 「将来を切り拓く意志と知恵」の向上 [創造性]
※市民科学習の重点 将来設計領域

⑤ 東海グループ小中一貫教育としての指導の重点

9年間でこれからの社会を生き抜くための能力・資質を育成する。

ア 「論理的に考える力」を基盤とした学力の育成

言語活動（話す、聞く、書く、読む）をツールとして、論理的に問題を解決していく知恵・技術の習得

イ 「礼節を重んじる態度」の育成

礼法作法の習得（対人関係、自己の確立）、正しい言葉遣い（規範意識、他者尊重）、節度ある生活習慣づくりの育成（自己責任）

⑥ 東海グループ小中一貫校としての特色づくり

ア 一貫性・特色ある教育開発

各校の特色を生かしながら、「論理的な考え方」を学ぶ独自単元の開発・試行

イ 4【2-2】-3-2の指導方法の一貫性・段階性・系統性

学年段階で各教科（市民科を含む）や生活指導に対する「指導基準(共通した指導目標や内容・方法)」を策定し、授業の基本とする。

ウ 育成方針の一貫性・共有化

小学校から中学校にかけて、個々の児童・生徒の理解と才能や良さを伸ばすための「指導・育成の記録」の作成し、教育の工夫・改善に努める。

オ 体力、健康の一貫性

3・5・7年生の体力実態を踏まえ、各校の基本的な生活習慣並びに体育指導等における課題解決を図り、健康づくり・基礎体力の向上を目指す。

⑦ 各学校の特色づくりと小・小連携による相互連携

・東海中学校

生徒一人一人の出番がある学校、生徒の手による行事の創造
地域に根ざしたボランティア活動
3年間体験を積み上げる宿泊行事

- ・城南第二小学校
 - 自信と意欲を伸ばす教育
 - 重点－「鍛錬」「修養」「自学」
- ・城南小
 - 「地域と共に歩む学校」「独自カリキュラム（英語科）指導」
 - 「関わり合いを深める交流活動」
- ・浅間台小
 - 「言語活動を伸ばす」図書館教育 「感性を育てる」Asamadaiギャラリー
 - 「生きる大切さを知る」赤ちゃん交流・食農教育・特別支援教育、保幼小連携

(2) 研究仮説

東海グループ小中一貫校の教育指針並びに4-3-2段階の各目標の設定、指導の重点に基づきミドルリーダーを中心とした「経営企画部(学力・生活指導・市民科・進路)」と「学年指導部(2・4・6・8年)」による組織体制と運営管理により、小中一貫教育に関する諸課題の解決を図りながら、分離・連携型9年間の一貫性・共通性のある教育の実現と質的向上を図ることができる。

4 研究推進計画

(1) 教育課程の概要

- ① 東海グループ小中一貫教育としての目的設定 ※教育指針・15歳の姿
- ② 目的に対する4-3-2の目標設定 ※共通した教育目標
- ③ 一貫教育の特色づくり ※9年間の一貫性・共通性
- ④ 目標における各校の教育課程の編成 ※教育カリキュラムの構成
- ⑤ 副校長を中心とした一貫教育の推進 ※グループ副校長会
- ⑥ ミドルリーダーによる一貫組織体制の確立と運営 ※経営企画部
- ⑦ 各校の独自性と小中の一貫性・共通性のあるカリキュラム開発 ※学校選択制
- ⑧ 小・中の教員の意識向上 ※学年指導部・校内組織
- ⑨ 保護者・地域への理解と連携・協力 ※外部評価委員会
- ⑩ 小中一貫教育における課題分析と対応策 ※外部評価・効果測定と検証

(2) 年次研究計画

		研究内容等
第1年次 【重点】 ○実態把握 ○課題分析 ○対応策	管理部 副校長・(校長)	○東海グループの教育目的・指針・目標の設定と管理 ○グランドデザインと組織編成、ミドルリーダーの育成 ○分離・連携型の小中一貫教育の課題解決
	学力・カリキュラム部 主幹・教務主任	○各校の基礎学力の実態把握と課題分析 ※学力調査 ○各教科の年間指導計画の修正 ○「論理性」を育成する単元開発と試行 ○指導基準の策定と実施

○具体的な取組 ○効果測定 ○改善策の検討	生活指導部 生活指導主任	○各校の生活指導の取組、現状と課題 ※生活アンケート ○各学年段階における生活指導における共通事項の実施 ○「礼節を重んじる態度」に向けた活動検討
	市民科推進部 市民科推進教師	○社会性・人間性に関する児童生徒の実態調査 ○一貫目標を踏まえた市民科学習の重点化 ○市民科15能力を踏まえた各教科指導のあり方
	進級・進学部 進路指導主任	○7年生の基礎学力に関する課題把握と対応 ○個別の学習・生活指導に生かす育成の記録の検討 ○6年生の中学校理解や体験活動などの推進
	学年指導部 2・4・6・7・8学年主任	○小学校3校でのテスト統一と結果分析と対応策 ○学習・生活指導の実態と課題、具体的な取組 ○1～4年、5～7年、8～9年の目標に対する実態と課題
	検証 ※1年次の報告書の作成・配布 ・各部での進行管理において、一貫教育の目的・組織・人・カリキュラムに関する課題を明確化する ・課題解決のため、組織体制としての取組を検討する。	

	研究内容等	
第2年次 【重点】 1年次の結果からの改善 ○児童の変容 ○要因分析 ○改善策 ○具体的な取組 ○効果測定 ○改善策の検討	管理部 副校長・(校長)	○東海グループの教育目的・指針・目標の改善 ○組織編制の変更と強化 ○分離・連携型としての小中一貫教育の進め方 ○各部の1年次の成果確認と課題解決策の検討
	学力・カリキュラム部 主幹・教務主任	○各校の基礎学力の変容、状況確認 ○各教科の年間指導計画の重点化と指導基準の改善 ○「論理性」を育成する単元開発の実施
	生活指導部 生活指導主任	○各校の生活指導に関する変容確認 ※生活アンケート ○各学年段階における生活指導の実態確認 ○「礼節を重んじる態度」に向けた活動推進
	市民科推進部 市民科推進教師	○社会性・人間性に関する児童生徒の変容 ○一貫目標を踏まえた市民科学習の指導法の検討 ○市民科15能力と各教科指導との関連付け
	進級・進学部 進路指導主任	○7年生の基礎学力に関する成果と課題把握 ○育成の記録の活用方法の検討 ○6年生の中学校理解や体験活動の推進
	学年指導部 2・4・6・7・8学年主任	○小学校3校での指導効果の確認 ○学習・生活指導の実態と課題、具体的な取組 ○1～4年、5～7年、8～9年の目標に対する実態と課題

	<p>検証 ※中間報告、2年次の報告書の作成・配布</p> <p>・1年次の取り組みに対する効果を確認する。成果並びに課題店について再度、各部署の「目的・組織・人・カリキュラム」要因分析を行い、分離・連携型の小中一貫教育の課題解決を行う。</p>
--	---

	研究内容等	
<p>第3年次</p> <p>【重点】</p> <p>モデルプランの提案</p> <p>※一般化</p>	<p>管理部</p> <p>副校長・(校長)</p>	<p>提案事項</p> <p>○分離・連携型小中一貫校の校長・副校長の役割</p> <p>○目的・組織・人・カリキュラムの管理内容と方法</p> <p>○組織編制の在り方と各部の活動内容と方法</p>
	<p>学力・カリキュラム部</p> <p>主幹・教務主任</p>	<p>提案事項</p> <p>○9年間の基礎学力向上の取組</p> <p>○指導基準と各教科の年間指導計画の作成手順</p> <p>○一貫校としての特色づくり</p>
	<p>生活指導部</p> <p>生活指導主任</p>	<p>提案事項</p> <p>○統一した生活指導の内容・方法</p> <p>○各学年段階における生活指導の視点</p> <p>○「礼節を重んじる態度」に向けた活動方法</p>
	<p>市民科推進部</p> <p>市民科推進教師</p>	<p>提案事項</p> <p>○市民科15能力と各教科単元との関連的指導</p> <p>○市民科学習に関する調査と改善計画</p> <p>○市民科15能力を踏まえた各教科指導のあり方</p>
	<p>進級・進学部</p> <p>進路指導主任</p>	<p>提案事項</p> <p>○6年と7年への基礎学力に関する連携</p> <p>○「指導育成の記録」の活用</p> <p>○6年生の中学校理解や体験活動などの推進</p>
	<p>学年指導部</p> <p>2・4・6・8学年主任</p>	<p>提案事項</p> <p>○小学校3校での統一・共通の取組</p> <p>○1～4年、5～7年、8～9年の目標に対する実態と課題</p>
	<p>検証 ※中間報告</p> <p>○3年間の研究を通して、分離・連携型小中一貫教育をより効果的に推進していくための目的要因、組織要因、人的要因、カリキュラム要因を分析し、成果と課題を提案する。</p>	